

安政地震の津波

安政元年（1854）11月4日に遠州灘を震源とする東海地震が発生し、その約32時間後の翌5日には紀伊半島から四国沖を震源とする南海地震が起こり、四国の太平洋沿岸に津波が襲来しました。安政地震の津波の記録は徳島県牟岐町や高知県香南市の碑にも残されています。

■牟岐小学校前の大震潮記念碑（徳島県牟岐町）

安政元年（1854）11月4日辰の刻（午前8時頃）大地震があり、巳の刻（午前10時頃）に津波が来たため、人々は恐怖に堪えられず山頂に避難して一夜を過ごしました。翌5日申の刻（午後4時頃）にも大地震となり、その後丈余の逆波が三度襲来しました。牟岐小学校前の大震潮記念碑には、この津波により家屋の流失640戸、溺死39人の被害が出たことが記されています。この碑は昭和6年（1931）に西青年分団が建立したもので、そこには過去に起こった地震の暦（永正9年（1512）、慶長9年（1604）、宝永4年（1707）、安政元年）とともに、天変地異の兆候に遭えば油断なく避難することが肝要とも伝えています。＜大震潮記念碑の碑文、牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」1976年、猪井達雄、澤田健吉、村上仁士「徳島の地震津波」1982年など＞



■上岡八幡宮の安政地震記念碑（高知県香南市）

安政元年（1854）11月5日の地震による津波について、上岡八幡宮馬場先の安政地震記念碑（明治15年（1882）建立）には「嘉永七年寅十一月五日大地震、地所々よりしつみ、浦々人家流失、人いたみ夥敷、上岳山西川原まで浪来る事を記」と書かれています。上岡八幡宮西の川原は物部川河口から約2.4km付近にあたります。津波が物部川をさかのぼったことを伝えています。八幡宮から東南方向250m程の所には「じゃこ田」と呼ばれる低地の田があり、これは津波で押し上げられた雑魚が潮の退いた後にたくさん残っていたため、名付けられたと言われている。＜安政地震記念碑、野市町史編纂委員会編「野市町史下巻」1992年、山中弁幸「土佐の大地震津波の碑記録(1)」(南国史談第16号)1994年など＞

